

令和4年村上市議会第1回定例会会議録（第5号）

○議事日程 第5号

令和4年3月3日（木曜日） 午前10時開議

第 1 会議録署名議員の指名

第 2 諸般の報告

第 3 一般質問

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○出席議員（21名）

1番	上村正朗君	2番	菅井晋一君
3番	富樫雅男君	4番	高田晃君
5番	小杉武仁君	6番	河村幸雄君
7番	本間善和君	8番	鈴木好彦君
9番	稲葉久美子君	10番	鈴木一之君
11番	渡辺昌君	12番	尾形修平君
13番	鈴木いせ子君	14番	川村敏晴君
16番	川崎健二君	17番	木村貞雄君
18番	長谷川孝君	19番	佐藤重陽君
20番	大滝国吉君	21番	山田勉君
22番	三田敏秋君		

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条の規定により出席した者

市 長	高橋 邦 芳 君
副 市 長	忠 聡 君
教 育 長	遠藤 友 春 君
総務課長	東海 林 豊 君
企画財政課長	大滝 敏 文 君
自治振興課長	板垣 敏 幸 君

税 務 課 長	大 滝	慈 光	君
市 民 課 長	八 藤 後	茂 樹	君
環 境 課 長	瀬 賀	豪	君
保 健 医 療 課 長	信 田	和 子	君
介 護 高 齡 課 長	大 滝	き く み	君
福 祉 課 長	木 村	静 子	君
こ ど も 課 長	中 村	豊 昭	君
農 林 水 産 課 長	稲 垣	秀 和	君
地 域 経 済 振 興 課 長	田 中	章 穂	君
観 光 課 長	永 田	満	君
建 設 課 長	伊 与 部	善 久	君
都 市 計 画 課 長	大 西	敏 行	君
上 下 水 道 課 長	山 田	知 行	君
会 計 管 理 者	菅 原	明	君
農 業 委 員 会 事 務 局 長	小 川	良 和	君
選 管 ・ 監 査 事 務 局 長	木 村	俊 彦	君
消 防 長	佐 藤	正 弥	君
学 校 教 育 課 長	渡 辺	律 子	君
生 涯 学 習 課 長	大 滝	寿 子	君
荒 川 支 所 長	平 田	智 枝 子	君
神 林 支 所 長	加 藤	誠 一	君
朝 日 支 所 長	岩 沢	深 雪	君
山 北 支 所 長	斎 藤	一 浩	君

○事務局職員出席者

事 務 局 長	長 谷 部	俊 一
事 務 局 次 長	内 山	治 夫
書 記	中 山	航

午前10時00分 開 議

○議長（三田敏秋君） ただいまの出席議員数は全員です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

本日の会議は、お手元に配付の議事日程により議事を進めてまいりますので、よろしくご協力をお願いいたします。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（三田敏秋君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則の規定によって、4番、高田晃君、20番、大滝国吉君を指名いたします。ご了承を願います。

日程第2 諸般の報告

○議長（三田敏秋君） 日程第2、諸般の報告を行います。

理事者から報告をお願いします。

市長。

〔市長 高橋邦芳君登壇〕

○市長（高橋邦芳君） おはようございます。諸般の報告について申し上げます。

初めに、岩船産コシヒカリが令和3年産米食味ランキングで特Aを獲得したことにつきましてご報告を申し上げます。昨日、一般財団法人日本穀物検定協会が発表しました令和3年産米の食味ランキングにおきまして、岩船産コシヒカリが2年ぶりに最高評価の特Aに返り咲きました。これまで本市では、特A復活を目指して、関係機関連携の下、生産者の皆様と一体となって品質向上に向けた取組を進めてきたところであります。令和3年産米の特A銘柄が令和2年産米に比べてその数を大幅に減少させる中、岩船産コシヒカリが特Aを獲得したということは、これまでの取組が実を結んだものであると大変うれしく感じているところであります。今後も本市が誇るブランド岩船米の魅力を広く発信していくとともに、さらなる食味向上に向けた取組を産地一体となって進めてまいります。

次に、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻につきまして申し上げます。全国市長会では、このことは国際社会、ひいては我が国の平和と秩序、安全を脅かし、明らかに国連憲章に違反する行為であり、断じて容認できないとして、2月25日に地方六団体連名で声明を発表し、強く抗議の姿勢を示したところであります。非核平和都市を宣言し、戦争の惨禍を二度と繰り返すことのない社会と人類の恒久平和を一日も早く実現するため、非核平和を願う全ての国の人々と手を携えることを誓うとした本市といたしましても、このたびの事態を受け、ウクライナとの連帯の意思を表すこととして、村上駅前の歓迎塔をウクライナの国旗である青色と黄色にライトアップしたところであります。

ます。

以上、ご報告申し上げます。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これから質疑を行います。

ご質疑ございませんか。ございませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（三田敏秋君） これで質疑を終わり、諸般の報告を終わります。

日程第3 一般質問

○議長（三田敏秋君） 日程第3、1日に引き続き一般質問を行います。

本日の一般質問は2名を予定しております。ご了承ください。

最初に、21番、山田勉君の一般質問を許します。

21番、山田勉君。（拍手）

〔21番 山田 勉君登壇〕

○21番（山田 勉君） おはようございます。市声クラブの山田勉です。議長のお許しをいただきましたので、一般質問させていただきます。

初めに、このたびの北京オリンピックでの村上市出身の平野歩夢選手が見事金メダル、また弟の海祝選手も堂々の9位に入賞の快挙を成し遂げました。村上市の誇りであり、一市民として本当にうれしく思います。

また、このたびの三幸製菓の火災で6人もの犠牲者が出たことは誠に残念であり、お亡くなりになられた方に謹んで心よりお悔やみ申し上げます。

それでは最初に、蒲萄スキー場の運営について伺います。スキー場を存続させるためには、夏場の有効利用が必要と考えますが、夏場に集客が多い瀬波温泉などと連携した活用方法について、市長の所見を伺います。

2項目め、人口減少に対する取組について。富山県南砺市では、南砺で暮らしません課を設立し、結婚活動の支援、定住、空き家対策などの業務を行っています。勤務時間は午前10時から7時までとなっており、休日は年末年始のみとのことです。また、恋愛塾や写真お見合い会などのイベントを開催し、人口減少に対する取組を行っており、本市の人口減少対策の参考になると考えますが、市長の所見を伺います。

3項目め、除雪の支援策について。今年は大雪となり、ひとり暮らしの高齢者世帯などでは除雪は大変だったと思います。今年度から玄関から道路までの避難路確保のための必要最低限の除雪も補助金の対象となりましたが、申請状況をお伺いします。

答弁の後に再質問させていただきます。

○議長（三田敏秋君） 市長。

〔市長 高橋邦芳君登壇〕

○市長（高橋邦芳君） それでは、山田議員の3項目のご質問につきまして、順次お答えをさせていただきます。

最初に1項目め、蒲萄スキー場の運営についての瀬波温泉との連携が必要と考えるがとのお尋ねについてでございますが、蒲萄スキー場のリフトにつきましては、積雪時のスキーやスノーボードによる利用を目的とした仕様となっておりますので、夏場のリフトの使用については、施設の構造上、現状の設備では使用できないものであります。また、夏に瀬波温泉を訪れる観光客の多くは海水浴を目的として訪れているものと認識をいたしております。これまでも蒲萄スキー場を花畑やワラビ園として活用できないか検討を行ってまいりましたが、ゲレンデが急斜面であることからお客様の安全を確保する施設整備が必要となることや、水の管理等の課題があり、実現には至っておりません。蒲萄スキー場につきましては、現在公共施設マネジメントプログラムに基づき、今後の方針について検討を進めているところであり、令和4年度中の方針決定に向けて作業を進めているところであります。

次に、2項目め、人口減少に対する取組についての富山県南砺市の人口減少に対する取組についての所見はとのお尋ねについてでございますが、人口減少問題は多くの自治体が抱えている課題であり、本市においても危機感を持って対処しているところであります。本市では、第2期村上市総合戦略において、人口減少に関する様々な課題に対し、人口の増加や減少の緩和を目指す取組と人口が減少する地域社会に対応していくための取組の両面をバランスよく同時に進める巧守のバランス戦略を基本的な考え方とし、施策を展開しているところであります。魅力ある地域をつくり、多様なつながりを増やすことや、住みたいと思えるまちをつくる取組として空き家バンク事業やU・Iターン促進支援金事業等を行っているほか、結婚新生活支援事業補助金制度の事業を展開し、関係人口づくりを行っているところであります。今後につきましても、巧守のバランス戦略を基本とし、南砺市をはじめ、全国の自治体の事例を参考に研究しながら、本市にとってより有効な取組を進めてまいりたいと考えております。

次に、3項目め、除雪の支援策についての玄関から道路までの除雪費援助事業の申請状況はとのお尋ねについてでございますが、令和4年3月2日現在、屋根の雪下ろしとそれに伴う排雪に対する申請件数は209件、玄関から道路までの除雪に対する申請件数は37件となっております。

以上であります。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） ありがとうございます。私もどのぐらいの人数がいつも利用されているのかなということで、担当にお願いして6年間の人数を調べてまいりました。平成28年には7,331人、平成29年度は9,825人、そして平成30年は9,368人、令和元年と令和2年は要するに雪が少ないため、またコロナの関係で中止になりました。それで、令和3年度は12月と1月分の合計ですが、3,721人

でした。今後当然これ以上に増やさないと、今年は特に大雪で本当に大勢の方が来てくれるかなと思いましたが、これだけの人数でした。これについて市長のお考え、要するにそれだけ利用者が少なかったということでどう思っておられますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 幸いなことに2シーズンぶりに営業することができて本当によかったなと思っているのですが、その中で年内、年明け前からオープンできたのかな、ぎりぎり間に合いましたので、年末年始の長期休業の期間に利用していただける方がいるのではないかなと思って非常に期待をしました。残念ながら感染症の拡大の傾向がありましたので、動かしてはいるのですけれども、自重された方もいらっしゃったのではないかなというふうに思っております。その結果、この数字にとどまっているということだろうというふうに思っておりますけれども、比較的蒲萄スキー場を選択していただける方がいらっしゃいました。その方々の利用ニーズにしっかりお応えをすること、これももちろん重要でありますけれども、現在公共施設のマネジメントプログラムで全体のコストパフォーマンスを考えながらということで今作業を進めておりますので、その中で今回の利用客数、これについてもしっかりと検証をした上で、今後の方針を定めていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） それからも一つ、特別会計の繰出金についても6年間どのぐらいの額であったのかということで担当者をお願いして調べてもらいました。平成28年度は5,044万3,000円、そして平成29年度は4,408万6,000円、平成30年度は4,328万8,000円、令和元年度は3,085万9,000円、そして令和2年度は1,288万1,000円、そして令和3年度は3,368万7,000円ということで聞きましたけれども、結構値段的には相当出ているわけですが、これだけ値段をかけて人数がこれだけなわけですが、このまんまいくとやっぱり大変な状態になるのかなというような感じは受けているのですが、市長の考えも何かございましたら。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） これまでも蒲萄スキー場の運営につきましては数次にわたって議会でご答弁を申し上げさせていただいたところでありますけれども、今議員がお示しの各年度の特別会計、これにつきましては一般会計からの繰り出し、それと使用料、利用料徴収という形で、私の感覚ですけれども、4,500万円から5,000万円、これ設備投資が必要なとき、大規模な改修が必要なときにはそれに倍する経費を投入するわけでありまして、通常の営業でありますと大体4,500万円から5,000万円ぐらいで動きます。その中で、利用者の数にもよりますけれども、大体1,000万円の収入があると。ということは、3,500万円から4,000万円の持ち出しで、持ち出しと申しますか、一般会計からの繰入れで運営をしている公共施設であります。この間、学校現場を含めているような形で、教育現場での利用、また様々な関係団体の利用、こういったことも進めてきました。そこに対する

投資が妥当なのかどうかという議論も含めて、公共施設のマネジメントプログラムの中で今検証をしているということでもあります。他の公共施設も全て押しなべてそうでもありますけれども、必ず黒字になる施設というの私まだ経験したことないものですから、その中でもそれに倍する市民の福祉向上であったり、生涯学習の推進であったり、様々な分野での貢献度はあるのだろうというふうに思っております。それをどういうふうに判断していくのかということが重要であります。それと同時に、現在持続するためのまちづくりを進めていくわけでありますから、その中でどう判断していくのか。多様なそういうものを全て総動員をしながら現在検証をしながら、令和4年度中にはその方針、方向性を定めてお示しをしていきたいということで考えております。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） 私は、蒲萄スキー場にスノーボードの練習場を造ったら、今以上に利用者も増えるし、そして私は今がチャンスだと思うのですが、もし私がそう言ったら、市長はどんな考えですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 現在蒲萄スキー場におきましては、スノーボードの利用も可能になっておりますので、存分に使っていただきたいというふうに思っております。議員ご提案の特化した形ということになるのかもしれませんが、現在のゲレンデ状況の中で利用していただくことは可能でありますけれども、例えば競技に向けてとか、アスリート育成、実は過去に検証したことがあります。しかしながら、スキー場のレイアウト、それと傾斜、こういうものをトータルで考えたときに、なかなか特化した形での練習場的なものを造るのは難しいという専門家のご判断もいただいているところであります。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） 新潟県ですけれども、同じスノーボードの練習場があります。そんなにお金をかけないですべるだけの、そういうのもすごく大勢の方が利用していたみたいなのですが、どうですか。同じですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 各スキー場、それぞれゲレンデの特性がありますので、その中で過去に検証したのですけれども、なかなか実現に至らなかったという経緯があります。それを振り返ることを否定しているわけではありませんので、振り返ってみたいと思いますが、それと併せて現在スケートボード、スノーボード競技を各都市のメインのスポーツ施設と捉えている自治体との連携を含めて、今進めています。そうした中で、本県においては南魚沼市さんと連携をしようということで議論させていただいているのですが、冬は南魚沼市さんのモンスターパイプを使ったり、夏になれば村上市のスケートパークに南魚沼さんのほうから来ていただくとか、それを県全体に広げていく、さらには日本国中に広げていく、こんな取組も1つ必要なのかなというふうに思っておりますので、

競技に特化した形でのそういうふうなサポート体制、支援体制については、また別途考えていこうというふうに考えておりますが、蒲萄スキー場の現状の私どもの評価というのは今申し上げた内容になります。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） また、スキー以外の利用についてということで、6年間何か別ないろんな企画してきましたかということで担当の方にお問い合わせしたら、6年間はスキー以外は一切やっていませんでした。そんな形で、いろんなイベントがあるでしょうけれども、私は反対に蒲萄スキー場フェスティバル、子どもから大人まで楽しめる、またコンサート、また地域のイベントの企画、バーベキューなどいろいろ企画すれば今以上に人口も増えるし、またスキー場の頂上で日本海を眺めて、最高の景色だと思いますが、私はまだ登ったことはないのですが、相当すてきなところではないかなと思うのですが、担当課長、いかがですか。

○議長（三田敏秋君） 観光課長。

○観光課長（永田 満君） リフトにつきましては、先ほどありましたけれども、冬の仕様になっていきますので、夏場の利用をするためにはいろんな改修をしなければなりませんので、今の状況ではできないというふうに考えておりますが、それ以外のイベントにつきましては、いろいろ今までも、先ほど申し上げましたように、幾つかは検討したのですけれども、なかなか実現に至りませんでしたので、どういった活用が可能かについてはちょっと検討させていただきたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） これから人口を増やして、蒲萄スキー場が存続するためにいろんな企画をやってほしいのですが、今年はまだそろそろ3月で大体終わりでしょうけれども、今後、担当課長、何か考えませんか。こういうイベントとか、そういうのを考えて、少しでも人口を増やして、スキー場が運営、成り立つように、どうですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） スキー場を活用したイベントをどう人口の増加につなげていくのか、なかなか難しい設問だというふうに思っておりますけれども、一過性の例えばイベントとかそういうもので人口が劇的に増えるとは私は考えておりません。その方々がこの村上市を選択をしていただいて、そんな中で暮らす上において、夏になれば海岸線に行ってバーベキューができたり、夕日を見ながら時間を過ごすことができる。春になれば、例えば山菜を取りに行ける。そのときに蒲萄スキー場が使えないかという発想であれば、可能性はあるのだろうというふうに思っております。そうした中で、検討した結果、やはりゲレンデの構造上なかなか難しい。今課長から申し上げましたとおり、リフトについてはスノーボード、スキーヤーが利用する形になっています。ですから、安全装置も全く違うレベルで設定されておりますので、そこをまず改修していく。そのときにかかる投資、これがどの程度の人口の増加につながっていくのか、また地域の活性化につながっていくのか、それ

をきちんとしてしっかりと、先ほど申し上げましたとおり、巧守のバランスを取った上で進めていくということが必要だというふうに思っておりますので、それを考えたときに現状は今の形だということとであります。今後いろんな形で、地域の皆さんの思いもあろうというふうに思っておりますので、これを面的に広げていって、もう少しそれが一つのツールとして活用できると、蒲萄スキー場を一つのツールとしてほかと組み合わせていろんな仕組みができるのではないかとというようなことについては、検証をしていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） 今年、今までにない大雪でしたが、私もスキー場へ土曜日2回ぐらい行ってきましたけれども、相当もう満員だかな、そしてまた食堂を行列つないでいるかななんて思って、昼間も行ってきました。もうがらがらで誰もいなかったのです、ほとんど。これについて、大雪なのになぜ増えないのか、副市長、何か案がありますか、いい案が。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） スキーヤー、ウインタースポーツを楽しむ方々がやっぱり人口の減少とともに少なくなっているというのは否めない事実かなというふうに思います。私今シーズン、ある方がスキーの指導員の資格を取るために蒲萄スキー場のシーズン券を買って、それでホームゲレンデとして一生懸命練習されていて、2月末に合格したという話を聞きました。それから、これも市内出身の方でありますけれども、全日本スキー技術選手権、これに長く出場されている方もいらっしゃいます。だから、質の高い、そういったすべりを、自らの技術を磨くためにこのスキー場を利用するという方は確実にいらっしゃるといふふうに思っております。したがって、確かに大勢来てくださることは望むところではありますけれども、いろいろ特徴のあるスキー場が県内にもあるわけでありますので、ここは中上級者がしっかりとすべりを、自らのすべりを磨くため、そんな目的を持った方が根強くいらっしゃるといふことも事実であろうというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） これだけ大雪降ったのだから、もっともっと増えるだろうかと、何か副市長のまたいい考えありませんか。これからもっと増やすにはこうしたほうがいいのではないかと、何かございませんか。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） 今申し上げたように、特徴のあるスキー場をどうすべきかということを考えれば、やはり私が今紹介を申し上げたような形で以前の、例えば新潟県内ですと、浦佐スキー場がスキー学校、スキー技術を学ぶためにあそこのスキー場を利用するという時代があったわけありますので、そんな特徴ある、何を特徴とするのかということを考えるというのが一つの方法かというふうに思います。ただ、先ほど市長からも答弁させていただきましたように、公共施設のマネジメントプログラムで今後の在り方を、それらを含めてどう活用できるのか、あるいはもっとほ

かの利用もあるのか、あるいはそうではないのかというようなことも併せてしっかり今検討している最中でございますので、その成り行きと言うと失礼ですけれども、検討の結果をまた改めてご紹介を申し上げていきたいというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） 私、新潟県の越後湯沢、年に2回ぐらい行くのです。それで、行ったとき必ず山に登りながら、バスで行くのですけれども、すごくにぎわっています。市長、越後湯沢の山に登ったことございませんか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 山に直接登ったことはありませんが、越後湯沢周辺のスキー場はほぼほぼ私は訪れて、スキーを楽しんだ経験を有しております。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） 副市長は、登ったことございませんか。すごくいいところなものだから。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） 私も多少スキーをたしなむ者として湯沢方面には行ったことがございます。大変変化に富んだ素晴らしい景観もございますし、いいところだなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） やっぱりいいところを参考にしてみるのもいいのではないのでしょうか。よろしくをお願いします。

それでは、2項目めの人口減少につきまして、私も一応参考になるかなと思ったけれども、皆さんに配付させてもらいました。人口が大体4万8,500人、結婚相談所というか、それを開設してから7年で100組、そして子どもさんが56人、それを聞いて、いかがですか。村上市でも考えませんか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 実は南砺市の田中市長さん、私も随分と懇意にさせていただいておりますので、常にご指導いただいている方であります。南砺市さん、富山県という地勢、地理的な背景を含めて、非常にいいまちとして、もういろんなことでしっかりと取組をされているなということで、私も非常に感心をさせられながら、いろんな形で参考にさせていただいているところであります。非常にいいまちだな、また田中市長さんのエネルギーあふれる政策も非常に素晴らしいなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） 現在会員が546人いて、女性が241名、男性が305人、そしてこのおせっ会の会の代表は、市長が会長なのです。それで、副市長が副会長なのです。これについてはどう思いますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今ほど申し上げましたとおり、田中市長さんの本当にエネルギーのあふれる行動力、その賜物だなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） それで、南砺市だけでなく県外、石川県、東京、神奈川県、埼玉県、愛知県、岐阜県、大阪、そのほかいろんな県も一緒になって、おせっ会の会に入っていて、そこで県外の人も結構お見合いのときに大勢来てくれるのですが、そういう会をつくりながら、1つは写真お見合いやったり、情報交換、要するに縁結び会議、そして結婚仲人には、1組2万円、1年以上市内に居住、出会いのイベント補助金ということで20名まとめれば10万円、50名なら20万円、成婚祝いには会員1人につき2万円商品券、結婚新生活支援、30万円を上限に補助をやっています。いろんな企画をやっていますが、私はやっぱりなかなか人口も増えないから、こういうことによって少しずつでも増えるのではないかなと思うのですが、それで勤務も正月と暮れだけしか休まないで年中無休でやっているのです。それはどこでやっているか。市役所ではなくジャスコなりに1か所借りて、多分そこでやっているのです。年に2回しか休まないのです。それで真剣にやっているのです。村上市もそんな考えできませんか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 本市におきましても、様々な新生活をスタートさせる、結婚生活をスタートさせる、また村上市を選択をして、村上市に来ていただいてそこで暮らす、そうした場合のインセンティブを与えるための様々な事業展開しています。その部分については、かなり効果を上げているという実感がありますので、そのところを推し進めていくということは重要だと思います。南砺で暮らしません課の職員の勤務形態の話だというふうに理解をしましたが、そういう形で時間の制約のない形の中でいろんなアプローチができる、そういった行政窓口、非常に重要だというふうに思っております。物理的にそういうふうな商業施設で展開するケースもあるでしょうし、今後検証はしていきたいというふうに思っておりますが、それと併せて、現在メタバースの世界の中でどんどん、どんどんリアルに体験をできる環境が整いつつあります。ソーシャルネットワークを活用することによって、自らが足を運んだと同じような感覚で村上市を体験していただけるような、そういう環境づくりも、令和4年度からデジタルトランスフォーメーションをしっかりと進めてまいりますので、そんな中で実現できると、より広範囲に、またレスポンスよく、いつでもどこでも、24時間、これ全く制約なくなるわけでありますから、そんなものも含めて検証をしていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） 平成26年4月に南砺市では、南砺で暮らしません課という1つの課をつくったわけです。それで、いろんな企画をしてやっているわけですが、そういう考えはございませんか、村上市で生活しません課という課をつくって。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） これまでも村上市で生活をさせていただく選択をさせていただけるための取組というものを各課横断的に様々な分野で、例えば子育ての部分、また福祉の部分、または産業の部分、それとお住まいになる住環境を整備するための支援をする所管ということで様々やってきました。それを集約した形で、南砺で暮らしません課という課、その村上版をとということのご提案だというふうに思っておりますけれども、既にその取組は進めております。したがって、令和4年度から企画戦略課という新たな組織の中で、これは巧守のバランスを考えながらということになりますけれども、必要なものについては積極的に取り組んでいくという大方針を掲げております。その中で、本市といたしましては、令和4年度以降、子育てを支援する、そして産み育てやすい環境、そういったまちを目指していこうということをやまず一番先頭の旗頭に掲げましたので、そんな中で企画戦略課を中心にして進められるのだろうなというふうに思っております。名前のインパクトはあると思いますので、そんな形がメッセージとして皆さんに届くような形、こんな手法も併せて考えられれば良いなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） 前にも看護師とか保育園の先生とか、県外から来た人に補助金出したり、それでまた県外から来た人にも補助金出して、大変いい結果で、14名でしたか、何人か、村上市に住みましたが、本当にこういうことは大いに進めて人口を増やす、要するに村上市は、いや、ほかとは違うのだよ、これだけ人口増えるのだよという、こんなにすばらしい増え方を何とかこれからも続けてほしいと思いますが、もう一度、市長。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 1,740を超える自治体が全て同じ悩みを抱えながらいろんな取組をしています。そんな中で、私ども本市におきましても、職員の英知を絞りながら、いろんなメニュー展開をさせていただいたその結果が数字に現れているということだろうというふうに思っておりますので、そこは歩みを止めずにしっかり進めていくということになろうと思っております。そうした中で、我が国日本全体の人口が減少する社会に今突入しておりますので、その中で我が国における社会経済活動をしっかり支えながら、その中に存在する村上市がしっかりとその中で足腰強くまちづくりを進められる、こういうことが重要だろうというふうに思っております。その中で、本市を選択していただいて人口が増えていくこと、とっても大切だというふうに思っておりますけれども、たとえば本市に住所を持たなくても関係性を持っていただける方、または本市に対していろんな形で支援をさせていただける方、いろんな手法があると思います。幸いなことにふるさと応援寄附金につきましても2万件を超える、これまで2万件を超えていなかったのですけれども、2万件を超える方々からご寄附をいただきながら村上市の政策を応援していただいているわけでありますので、そういった形を考えれば、いろいろなそういうふうな手法があるのだろうなというふうに思っております。

で、これからもしっかりと、これはどうかなというものであったとしても、積極的にいろんなメニューにトライしていくということが重要だろうなというふうに思っております。その姿勢で臨んでまいります。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） 前回も十何人か移住されて、これからも続けてくれると。そして、特に金メダル取った平野歩夢の影響で世界各国に村上市がもう、新潟の村上市といえば平野歩夢、そしてまた住みやすいということで恐らくこれからまだまだ人口が伸びるという考えでいますが、副市長、どんなものですか。これからぼんぼん伸びるのではないですか。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） 全国の自治体が同じような悩みを抱えながら、いろいろな方策を打っているということは事実かというふうに思います。以前議会でもご紹介があったかと思えますけれども、島根県では半農半Xというような形で、農業・農村に専業ではない、いわゆる兼業部分も併せながら移住・定住を進めていると。そしてまた、それなりの実績が上がっているというふうなご紹介もございました。今本市でもそういったニーズもあるわけでありまして、既にこれはシーカヤックですけれども、飯山さんという方が首都圏からこちらのほうに移住をされて、地域で頑張っているというふうなこともございますので、そういったいい例がたくさんございますので、これらをぐっと広めながら、市長申し上げましたような関係人口も含め、あるいは市出身の学生応援、この方々にも市の特産品を定期的にお送りするというふうな取組もあるわけでありまして、ふるさとを思い、そしてまた村上を好きになっていただいて、興味を持ちながら、ひいては村上で暮らすというところに結びつけられるというふうに思いますので、継続して取り組んでまいりたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） これからもどうかひとつ頑張って、人口を増やすためにいろんな企画をよろしくをお願いします。

それでは、3項目の除雪の支援策についてでございます。また土曜日、日曜日あたりも大雪降るみたいですがけれども、これからもやっぱり雪下ろしとか除雪とか、それはもう予算どおり額は決まっているでしょうけれども、継続するのですよね。

○議長（三田敏秋君） 建設課長。

○建設課長（伊与部善久君） 除雪につきましては、当然予算のこともありますが、市民の生活の足に支障のないように、降雪があれば除雪は進めていきたいというふうに考えてございます。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） それから、一般の方から連絡もらうのですが、要するに真ん中の除雪はするのだけれども、線、要するに歩道というか、歩くところの除雪まではしていないと。何とか歩くところもちゃんとやってもらわなければ困るという電話が何件か来ましたがけれども、それについては、

除雪の方法といいたいでしょうか、真ん中を抜ければ車だけは通れるけれども、ただ歩道の場合は、大変だから、そこもちゃんときれいにしてほしいという要望も結構もらっていますが、それについてはどうですか。

○議長（三田敏秋君） 建設課長。

○建設課長（伊与部善久君） 特に今年は雪が多うございまして、除雪するにも寄せる雪が、どうしても路肩のほうに寄せないといけないということで、非常に路肩の雪が余計になれば排雪作業、もしくは拡幅作業ということで、極力歩行者も歩けるようなスペースを確保するように努めてはおりますが、とにかく今年の場合は非常に余計だということで、一時的にやっぱり歩けない部分があったのかなというふうには考えてございます。道路管理者としては、車だけではありませんので、歩行スペースもできる限り確保したいなというふうには考えてございます。

○議長（三田敏秋君） 山田勉君。

○21番（山田 勉君） お願いやら、いろいろ言わせてもらいましたが、どうかひとつ村上の発展、そして皆さんが豊かになるようによろしく願いまして、私の一般質問はこれで終わります。ありがとうございました。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで山田勉君の一般質問を終わります。

午前10時55分まで休憩とします。

午前10時43分 休憩

午前10時55分 開議

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

○議長（三田敏秋君） 次に、6番、河村幸雄君の一般質問を許します。

6番、河村幸雄君。（拍手）

〔6番 河村幸雄君登壇〕

○6番（河村幸雄君） 驚ヶ巣会、河村幸雄です。議長のお許しを得ましたので、2項目について質問させていただきます。

歩夢君の金メダル、コロナ禍での暗いムードも吹き飛ばしてくれた。市民に感動と希望を与えてくれた。子どもたちのオリンピックへの意識も変わったと思う。村上市の誇りであります。弟の海祝君も3本目を滑り終えた4歳上の兄に真っ先に駆け寄り抱き合った姿に熱くなりました。「兄ちゃん、兄ちゃん」と語る姿、メダルと同様に兄弟愛を感じました。

では、質問させていただきます。1、重要伝統的建造物群保存地区について。令和4年度の施政方針に、重要伝統的建造物群保存地区の選定に向けた作業に着手し、その価値を広く後世に伝えていくため、関係団体と連携しながら取り組んでまいりますとあります。文化財として特に価値が高

いと判断され国から選定されるもので、歴史的な町並みを保存し、活用する制度であります。先人の築いた歴史・文化を後世に引き継ぐことは我々の責務であり、地域への愛着と誇りをもたらすものと思います。郷土村上を活性化する重要戦略として確実な実現に向けた取組を進めていただきたく、大いに期待するものです。つきましては、以下についてお伺いします。

①、重要伝統的建造物群保存地区の選定に向けた取組を積極的に推進することについて、市長の所見をお伺いします。

②、選定に向けた進捗状況と今後のスケジュール等について伺います。

③、選定された場合の効果をどのように評価しているのか伺います。

④、選定に向けて住民の理解と協力が不可欠と考えますが、どのように市民に伝え、ともに進めていくのか伺います。

大きな2番、活力ある観光への取組について。活力ある観光を取り戻すためには、新たな仕掛けが必要になると思います。村上市は、株式会社庄交コーポレーション、鶴岡市との観光連携協定を締結しました。マイクロツーリズムによる広域連携及び観光交流人口の拡大へ向けた地域経済の活性化を目的としたものと思いますが、以下の点について市長のお考えを伺います。

①、新たな観光施策を進めるには、官民を問わずに広域的な連携が鍵を握ると思います。大いに期待するものですが、今後の株式会社庄交コーポレーション、鶴岡市との連携をどのように進めていくのか、市長のお考えを伺います。

②、まん延防止等重点措置の延長により、感染への懸念から旅行のキャンセルが相次ぎ、観光業が大きな打撃を受けています。検証を進めつつ、新たな旅行スタイルへ対応していく必要があると思います。村上市が直営する観光施設の今後の方向性について、経営改善や戦略強化へのお考えをお伺いします。

市長答弁の後、再質問させていただきます。よろしく願いいたします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

〔市長 高橋邦芳君登壇〕

○市長（高橋邦芳君） それでは、河村幸雄議員の2項目のご質問につきまして、順次お答えをさせていただきます。

最初に、1項目め、重要伝統的建造物群保存地区については、教育長から答弁をいたさせます。

次に、2項目め、活力ある観光への取組についての1点目、庄交コーポレーションとの連携についてのお尋ねでございますが、鶴岡市にある株式会社庄交コーポレーションとは、昨年令和3年10月に観光連携協定を締結いたしましたところであり、観光交流の人口拡大や相互地域の経済の活性化を目的としており、観光資源の情報共有による相互の観光地を訪れるマイクロツーリズムの推進を図ることができることを期待をいたしているところでもあります。具体的には、旅行商品を開発する際に本市も協力をいたしまして観光拠点を紹介するなど、地元ならではの情報を盛り込み、他の旅行商

品との差別化を図ることを考えております。今後は、さらなる広域的連携を視野に入れ、他エリアへ拡大することも考えており、各エリアの事業者と連携しながら、市町村相互の経済活性化にもつなげていくことを目指しております。

次に、2点目、市が直営する観光施設の今後の方向性、経営改善や戦略強化についてのお尋ねでございますが、コロナ禍における観光の現状については、自家用車を利用した個人旅行が増えていることや、宿に入った後は外出せずのんびり過ごす旅行者が増えていること、また大都市圏への旅行が減少していることなど、これまでの観光のありようの変化が顕在化していると感じているところであります。本市が運営をいたします観光施設については、イヨボヤ会館やおしゃぎり会館、道の駅など様々なシチュエーションに対応できるコンテンツを有しているわけではありますが、昨今のニーズに合わせて、特に個人旅行客をターゲットにしたPR活動に力を入れておまして、SNSを活用して幅広い層に情報を発信しているところでもあります。その上で、施設そのものの魅力も重要であります。本市の観光施設は、比較的多くの皆様にリピートしていただいていると思っておりますが、そうした本市のファンをこれまで以上に増やしていく取組を進めていくことはとても大切であると考えております。そのためにも、何度でも訪れてみたいと思ってもらえる魅力ある施設であることが求められますし、とても重要なポイントだと思っております。訪れる方が最初に触れるものは、施設の持つ雰囲気でありまして、お迎えする際の職員の対応であります。訪れていただいた方に感動し、喜んでいただける魅力ある観光施設であるためには、ハード、ソフト両面からこれまで以上の磨き上げが必要であると考えているところでもあります。現在道の駅朝日のリニューアル事業を進めているわけではありますが、日本海沿岸東北自動車道の延伸と併せて、交流人口の拡大を担う拠点となる施設であると考えているところでもあります。この道の駅朝日を拠点として、市内にある道の駅神林、道の駅笹川流れをつなぐといった新たな観光コンテンツをつくり上げることができないのではないかと考えているところでもあります。コロナ禍における旅行スタイルも大きく変化をいたしております。今後のアフターコロナにおける対応、withコロナの旅行者のニーズにしっかりと対応できるよう、取組を進めてまいりたいと考えているところでもあります。

私からは以上であります。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） それでは、河村幸雄議員の1項目め、重要伝統的建造物群保存地区についての1点目、重要伝統的建造物群保存地区選定に向けた所見はとのお尋ねについてでございますが、伝統的建造物群保存地区制度は、文化財として価値づけされた町並みを保存し活用する制度であります。重要伝統的建造物群保存地区は全国の伝統的建造物群保存地区の中でも特に文化的価値が高いと認められた地区が国により選定されるものであります。そのため、この伝統的建造物群保存地区制度の導入には、現在本市が推進している歴史まちづくりと同様に、市民の皆様のご理解とご協力が不可欠であると考えております。今後も歴史資源を生かしたまちづくりを推進し、重要伝統

的建造物群保存地区の選定に向けたプロセスを着実に進めてまいります。

次に、2点目、選定に向けた進捗状況と今後のスケジュール等はお尋ねについてでございますが、現在の取組状況につきましては、伝統的建造物群保存地区保存条例及び伝統的建造物群保存地区保存活用審議会条例を今年1月1日に施行し、2月1日に伝統的建造物群保存地区保存活用審議会委員の委嘱を行いました。今年4月に第1回審議会を開催する予定といたしており、審議会では伝統的建造物群保存地区制度導入に不可欠な保存活用計画の策定に着手することを予定しております。また、第1回審議会終了後には、伝統的建造物群保存地区制度の導入が予定される区域の住民説明会の開催を予定いたしております。

次に、3点目、選定された場合の効果をどのように評価しているかとお尋ねについてでございますが、重要伝統的建造物群保存地区に選定されることにより、文化財的価値のある歴史的建造物の保存とともに、町並み、景観の向上が期待されるほか、住環境の改善が図られることから、交流人口の拡大やまちの魅力向上、ひいては空き家・空き店舗の解消や居住人口の減少抑制、そして住民の誇りや郷土愛の醸成にもつながるものと考えております。

次に、4点目、選定に向けてどのように市民に伝え、ともに進めていくのかとお尋ねについてでございますが、重要伝統的建造物群保存地区選定に向けた伝統的建造物群保存地区制度の地区指定に当たっては、都市計画決定が必要となる制度であります。この地区指定により建物への規制などが発生することから、制度導入区域の住民に対し説明会を開催し、伝統的建造物群保存地区制度の趣旨だけではなく、メリット、デメリットを丁寧に説明した上で、意見、ニーズをしっかりと聞きながら計画を策定することといたしております。

私のほうからは以上でございます。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） どうもありがとうございました。

伝統地区制度の導入を位置づけ、認定に向け文化庁と協議を開始したということでございます。先ほども話ししておりました選定の理由として、伝統的建造物群が多数現存し、歴史的な町並みを形成している、村上大祭などの祭礼行事や鮭文化など歴史的風致が形成される、文化財的な価値づけ調査、保存対策調査が実証済み、観光資源保護調査、村上町屋と町並み景観等の調査も進められていると。そして、市民によるまちづくり活動が活発な地域であるというようなことが選定の理由とされているようです。建物や町並み、景観だけではなく、生活、生き方、文化までの評価であります。この認定は村上市の魅力年全国に、世界に発信できる最高の機会であると思っております。建物外観部に規制がかかるが、改修については国からの補助金を受けることも可能となるというようなメリットもありますけれども、今後町屋再生プロジェクトの団体が手がけてきた外観の再生とともに、町屋を活用するため内部改修に関する補助なども、国ということではなく、そんなことも村上市として支援していただいたいというふうに考えております。

1、教育長の所見を聞かせていただきましたので、2番の選定に向けた進捗状況と今後のスケジュールについて伺っていきたくと思います。スケジュールとして、制度の導入に向けた手続を実施することにより選定地区、今後対象地区を見据えた調査を早急に進めていくのか、それとももう旧村上の町屋、小町、大町を選定地区ということに定めて進めているのでしょうか。その辺をもう一度確認させていただきたいのですけれども。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 選定地区を定めているというわけではございません。村上城下町の町人町、それが対象地域ですので、今後審議会においてどのように地区指定をしていくのか決定することになると伺っております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 町屋地区、1つ例ですけれども、小俣であったり、猿沢であったり、ちょっと話が飛んで悪いのですけれども、エリアのそういう追加など、そういうことは今後進めていかれるのですか。一つ一つクリアしていかなければならないということは分かりますけれども、エリアの追加。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 現在調査がなされているところ、旧町人町ですので、それ以外の山北地区、塩谷地区とか、そういうところに対象を広げるといことは現在考えておりません。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 今まで文化的な価値づけ調査も実証済みでありますけれども、今後も文化的価値づけに関する追加調査というふうに言われておりますけれども、追加調査というのは最終的に今まで調べてきたものをまとめるということでしょうか。どんな調査になっていくのでしょうか。ちょっと教えていただきたいのですけれども。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（大滝 寿君） 追加調査といいますのは、資料づくりの一つとしまして、これまでの調査から期間がまた空いているというようなこともございまして、現況のまた洗い出しと、要は現況確認というような部分を含めて追加調査ということでさせていただいております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 分かりました。

先ほども話ししました町屋再生プロジェクトが動き出し18年がたちました。空き家が更地にならないためにも、課題に挑戦しながら空き家再生制度をつくり、この伝統地区制度導入ということで思いがかなうような気がいたします。もちろん村上市側の応援もあったかとは思いますが、まちづくり団体と行政側が今まで以上に連携、情報等共有を重ねていただきたいと思います。市民、団体が歴史や伝統を守り伝え、積み重ねてきたことがこの評価を得たものと思いますので、その点

についてお伺いいたします。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（大滝 寿君） 今回の審議会の委員の中にも、もちろん町屋再生プロジェクトの方にお入りいただきまして、それで一緒に検討していきたいということで今計画をしております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 審議委員会とはまた別に、地元でつくる、町並みの保存を考えたり、地域住民でつくる保存推進委員会というものを発足していくことが大切なのかな。それは、行政とともに、地域の方と一緒に取り組むということでは必要になってくるのかなというふうに思いますけれども、ただ単に各地域の区長様にお願いするということだけではなく、そういうような委員会を設けながら進めていくということが大切なのかなというふうに思いますけれども、その件についてお伺いいたします。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 今後審議会において仮の地区を指定されることになると思うのですが、そのような町内、地区のご意見を伺うのは当然でありますけれども、幅広い層から、地域の方から、多様なそういうまちづくり、歴史ある町並みの景観を生かすまちづくりについてご意見を伺うということは、審議会においても参考とさせていただかなければならないことだと思っておりますので、皆様の意見をよく聞くようにしてまいりたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） そういう取組がこの選定を後押しする力強いものになると私は思います。町並みの形成だけではなく、教育長のよく言います人づくり、地域づくりの課題と、教育や学び、営みを通し郷土に愛着や誇りを持ってくれる人づくりということが大切になってくると思っておりますので、地域住民の方、地域に愛着を持つことに、また人材育成ということも考えながら、そういうような地区全員でやっという組織づくりというか、そんなことも取り入れてもらいたいなと思っておりますけれども。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 本当に多方面からこの村上を愛する、郷土に愛着と誇りを持てるような、そういう営みをどうしたらいいのか、それぞれの組織、人たちがよく考えていただいて、教育委員会にもご意見をいただくとか、そういうことを大いに参考にさせていただきたいと思っておりますので、自分たちの地域は自分たちが守るのだ、発展させるのだという、そういう営みを大いに歓迎したいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 重伝建選定に向けた取組を住民の目に見える形で周知することが大切になってくると思っております。住民への周知が私は鍵を握るのかなというふうに思います。重伝建の意義や村

上地区が選定された訳、住民に理解をしてもらうことが大切となってくると思いますけれども、この周知、どのような形で住民に周知していくか、どのような取組を考えているかお聞かせください。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 今まだコロナ禍ですので、住民の皆様にもどのように、一斉に集まっていたいで一堂に会していただければと皆さんに説明するのか、それとも指定された地区の区長さんをはじめ、代表の方にお集まりいただいてまずご説明させていただく、それからもっと小さなユニット、組単位とか、そういう単位で説明させていただくのか、そういうところも審議会の意見を踏まえながら、教育委員会としても丁寧な説明を繰り返していきたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 建物を建てるには補助が出ますよとか、景観だけではなく、周知するためには広報紙などの発行もするのでしょうか。今までの事業報告も大切だと思います。町屋再生プロジェクト等、まちづくり団体の今までの活動をさらに市民に報告したり、発信したりすることも、この重伝建の取組として目に見える形で市民に伝わっていくのかなというふうに思います。どうかそういう意味ではしっかり住民と協議を進めていっていただきたいと思います。

3番の選定された場合の効果をどのように評価しているか、町並みの景観の向上、住環境の改善、まちの魅力、価値の向上、所有者の負担軽減ということが考えられます。多くの歴史的建造物が並ぶ中、人口減少や空き家の増加などの課題が多い。観光客の落ち込みで人通りは少ない。高齢化、後継者不在による店の継続と商店街としての低下も見られると。地域の持続的な発展に向けた取組へ、にぎわい創出を目指すためにも、この事業は大切な事業です。通年観光のまち、この重伝建認定は大きな意味があると思います。重伝建選定を目指してこの機会に、地域おこし協力隊とは言いませんけれども、専門的知識のある人材の活用、それは市民に対しての発信であったり、まちおこしだったり、町屋再生等の経験がある人、先ほども言いました活動を紹介する広報紙の発行であったり、町のよさを伝えたり、重伝建の活用を住民に伝えたり、そういう意味では行政との間に入る、そういう人材が必要になってくるのかなというふうに思いますけれども、その点に関してはどう思いますか。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 行政の面からも、それからそのほかの面からも発信力ということは非常に大事だと思いますので、この魅力ある制度が導入されるように、波及効果も生むように、そういう方々の力も借りる必要があると思いますので、様々な面から発信できるように、魅力を伝えていけるように努力してまいります。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） よろしくお願ひします。

認定により建物の保存修理や防火設備の整備の補助が受けられるということですがけれども、ちょ

っと具体的にどんな補助が得られるか説明していただきたいのですけれども。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（大滝 寿君） 修景という部分で補助の対象になりますし、建物外観の修景につきましては、もし選定になれば改修費の65%が国の補助を受けられるというような状況がございます。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 白川郷や福島の大内宿など、消火、防水器具などが道沿いに設置されている。そのようなことも考えられるのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（大滝 寿君） 消火設備、防火設備の部分も対象になるというふうに聞いてございます。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 4番の住民の制度導入への理解、協力が不可欠と思うがということで、住民説明、合意形成がこれから進められていきますけれども、何よりここが一番ご苦勞であり、大変なことだと思えます。住民の意識改革が土台となり、住民への意義周知が、やっぱりここが鍵となると私は思います。選定地区や建物の補助だけではない、観光、商売につながるでもない、やっぱり市民として意識、みんなでこのまちを盛り上げていこう、そういう思いを伝えなければならないと思います。私は、そこが一番大変な仕事なのかなというふうに思っております。この制度は、住民の7割の了解がないと認定は難しいという、決まり事ではないのでしょうか、国の考え方もありますけれども、その辺をどのように進めていくおつもりでしょうか。お願いいたします。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 反対される方、賛同されない方もおるかもしれません。ただ、それはこの伝建制度の価値、それからこれまでのまちづくりを生かしながら、さらに発展させるという意味で、ご理解をいただけるように、ご協力いただけるように何度も何度もご説明をしていかなければならないものと思っております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 郷土愛を醸成し、地元定着、回帰を図り、交流も増え、将来は出身地の村上に戻ってくる、産業おこしも期待できる、重伝建にはそんな魅力を感じます。本当に市民と行政とみんなでこれを確実に進めていってもらいたい。私は、認定された後が変わっていく村上を考えると、わくわく、ドキドキします。本当にこの認定で村上が変わると思えます。しっかり皆さんでやっていていただきたいと思えます。旅行の目的地にもなり、観光客が増え、地域も活気づく。これからは、人がたくさん訪れることで地元の人に村上のよさを実感してもらえんと思えます。いろいろなこと仕掛けていかなければなりません。重伝建の認定を機に村上の魅力を全国、世界に発信していくことに大いに期待いたします。

次、2番、活力ある観光への取組についてお伺いいたします。株式会社庄交コーポレーションさんは、日本遺産に認定された出羽三山の月山、羽黒山でそれぞれレストランを運営したり、お土産の販売、お食事の提供、おもてなしを行っている。地域交通、路線バス、高速バス、庄内と東京を結ぶ夜行路線、そして仙台と山形へ運行している交通会社でございます。ホテル経営もしており、航空事業部もございます。観光案内、観光物産館もあります。以外の事業も導入しております。インバウンド、アウトドアなどの旅行素材の組立てを行い、提案しています。素晴らしい事業所でございます。市長が言うノウハウや知見を学ぶには最大のチャンスです。しっかり勉強させていただきたいと思っております。

そこで、新たな観光戦略、令和3年3月定例会でも観光回復へ村上市の来客者が多い山形、庄内との広域連携を進めていただきたいと、隣接する村上、鶴岡エリアなど取組を進めていただきたいと提案させていただきました。市長も当然考えていたことなのだなというふうに改めて思いました。市長の考えに同感いたします。大いに期待します。わくわく夢が膨らみます。新たな観光へ、広域、官民の連携が鍵を握るはず。行政と民間が連携し、観光の新たな仕掛けづくりを期待します。四季折々の豊かな自然、新鮮でおいしい食べ物も数多く、温泉、文化、歴史、その他の観光を生かすためにも、選ばれる村上、観光競争力の強化を進めていく必要を感じるが、そのためにも庄交コーポレーションさんの下、勉強させていただける本当にありがたい機会ではありますが、市長、一言お願いいたします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 先ほどの重伝建の議論の中でも当然通ずることがあるわけでありましてけれども、我々が現在暮らしているこの時間であったり、地域でありますけれども、先人が守り育ててきた貴重な財産であります。これを我々は将来にしっかりと継承していくという責務を担いながらということでもありますので、それぞれ当事者の皆様方には大いなるご協力もいただきながらということになるというふうに思っております。観光も当然であります。今回庄交コーポレーションさん、非常にコングロマリットとして幅広に事業展開されておまして、ノウハウもいっぱいをお持ちであります。残念ながら行政組織であります本市においては、成功体験もありますけれども、失敗もあります。その中で幅広の展開ができるか。いろんなものをコーディネートしてマッチングをさせて商品化していくというのは、やっぱりこれは庄交コーポレーションさんのお力が非常に強いわけであります。その結果としてあれだけ幅広の事業展開につながっているのだろうというふうに思っておりますので、ここと連携ができたということで非常にありがたいなというふうに思っております。これまでもたくさんの方は商品展開していただいています。うちのほうから、本市のほうからこういうものとのリンクというような形でご提案をさせていただきながら、提案させていただくというよりは、むしろコーポレーションさんのほうからいろんな形で、これはどう、あれはどうという話なのだろうというふうに思っておりますけれども、この短期間であれだけのメニューが出来上

がっているのは非常に驚愕をいたしました。ですから、残念ながらコロナ禍の中でマイクロツーリズムのメニューが全部フル展開できているというような状況ではない、これは現実でありますけれども、これがやはり民間事業者の持つお知恵だというふうに思っております。そこを行政と連携をすることによってしっかりとアナウンスができたり、例えば財政的な支援ができたり、集客につながったりというようなことを具体的な事業として展開できるという意味においては、非常に有益だなというふうに実は思っています。従来から私申し上げておりますけれども、確かに県境はあります。行政区域の境目はありますけれども、人が移動して豊かな時間を過ごす、楽しみを自分のものとして得る、これについては境界は多分ないのだろうと思います。とりわけ村上エリアと庄内エリアは古くからつながりの深いところでありますので、このエリアを面として一帯と捉えて、マイクロツーリズム、そういうものがしっかりとつくり上げられていくということは非常に重要な。これは、本市の市民の皆様だけでなく、〔質問終了時間10分前の予告ブザーあり〕にも多分喜んでいただけると思っておりますけれども、他から訪れていただく方にも非常に魅力的に映る、そういった取組なのだろうというふうに思っておりますので、しっかりと進めてまいりたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） ありがとうございます。

インバウンドなどの回復であったり、県内や隣県をターゲットにマイクロツーリズムを進めるとか、修学旅行の誘致拡大とか、事業計画の幅がどんどん広がっていくような気がいたします。市長、一番最初に、コーポレーションさんに勉強させてもらう、どのような考えがありますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） もう既に旅行商品メニューとして連携して展開をさせていただいております。先ほどもちょっと触れましたけれども、この短期間でたくさんのメニューを実は商品化、もう既にされていますので、連携協定後から積極的に事業が進められているというふうに私は思っております。ただ、残念ながらコロナ禍でありますので、しっかりとそれが、例えば100%商品の購買につながっているということにはなっていないと思いますので、これからwithコロナの中でしっかりとその辺のところを展開できるようにしていきたいというふうに思っております。幸い2025年には大阪・関西万博も開催をされます。そうした中で、営業をしっかりと行いながら、いろんなところから選択をしていただける、そして訪れていただけるというような環境づくりに努めてまいりたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 副市長にお伺いします。農業分野はもちろん、今までの商売を通じて営業したり、提案したり、様々な経験がある副市長です。副市長の力も今後借りながら村上を発信していきたいと思っておりますけれども、このコーポレーションさんとともに行う上で何かありましたら教えていただきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） この県北村上と、それから庄内、これは食文化も含めて非常に近い、あるいは似通った地方であるというふうに認識をさせていただきます。幸い鶴岡の皆川市長さんもSDGsを捉えながら、いわゆる地域で取れたものを地域で食す、それを新しい食事メニューとしていろいろな開発に大変力を入れているということもお聞きをしております。同時にこの村上市も、鮭のみならず農産物、あるいは林産物も含めて豊富な食材を有しているというようなことを考えますと、これを大きな旅行コンテンツに加えながら、これまでもそうですけれども、そこをさらにバージョンアップして、訪れる方にも喜んでいただき、そしてまたここで取れたものを商品に替えて地域外にも売り出すという、これがやっぱり相互に結びついた形で進められるというのが一番いい形なのだろうというふうに思います。食、食材、これをフルに活用して村上の魅力さをさらに高めていく。諸般の報告にもありました、代表する岩船産コシヒカリが特Aにまた返り咲いたという、このことをずっと安定して継続していけるように、そういった地道な努力も重ねながら、そこにさらに付加価値をつけるという、そういう取組を今後とも進めてまいりたいというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） ありがとうございます。

続きまして、村上市が直営する観光施設の今後の方向性、経営改善や戦略強化についてですけれども、全てコーポレーションさんから学ぶというわけにはいきませんが、勉強させていただけるのであれば、全て学ぶことができることかなというふうに私は思います。〔質問終了時間5分前の予告ブザーあり〕集客力の向上のために、コロナ禍、経営不振が続く施設の要因分析を行い、経営の改善計画を進めていくわけでございます。人気観光スポットになろうと、コロナ感染の真ただ中、他の自治体は生き残りを探り、虎視眈眈と戦略を進めているはずで、各自治体の道の駅ももちろん、新発田市においては城下町再生へ門前町のプロジェクト等進められております。再起への可能性を、観光を元に戻すために様々な工夫、チャレンジが進められております。改善の取組として新しい観光素材を探す必要もあったり、1つ、民間出身のトップによる戦略を取り入れたりというのはコーポレーションさんであったりしてもいいと思いますが、ビジネス経験のある、旅行業界の経験のある方を取り入れるような自治体も多く見られます。また、時間がないですので、やっぱりリピーター、村上にはリピーターには強い。地元の人への対応というの、地元で愛される土台づくりを進めるということも、観光としては必要なかなというふうに思っております。リニューアル、施設の刷新も必要でしょう。接客力、おもてなしの心も必要だと思います。1つだけ、接客技術以前の接客はどうしても我流になってしまう。私は、村上市の施設、研修を重ねるべきだと思います。人材の育成、研修を重ね、接客技術改善をもっと進めるべきだと思いますけれども、その辺はどのように思いますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 先ほど私申し上げましたとおり、まず訪れた方が一番目にするのは施設、外観から入って、一步踏み入れたときのやっぱり空気感だというふうに思っております。その空気感をつくり出すのは、そこに勤務する職員、また従業員であるわけでありまして。その方々がどういう意識で訪れた方に相對をするのか、これ非常に重要な視点だというふうに思っておりますので、その部分は先ほど申し上げましたおもてなしの心をより磨き上げをしていくように努めてまいりたいと考えております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 心に残るまた行きたい場所、人でありたいと感じます。私の実例としては、群馬県の郡上八幡の郷土資料館に行ってきました。また行ってみたいな、そんな対応をしてくれるところでした。全国には数多くあるかと思いますが、心に残るおもてなし、村上市の対応、今後期待したいと思います。

最後に、マイクロツーリズムやインバウンド、庄交コーポレーションとの取組に大いに期待します。新たな誘客のターゲット、さらなる進化を取り入れた取組、事業所とタッグを組んでやっていくことも進化だと市長もお話ししていただきました。将来への仕組みづくりを進めてもらいたいと思います。重伝建認定はもちろん、このような事業所との連携、大いに私は期待するものです。どうぞよろしく願いいたします。

これで私の一般質問を終わります。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで河村幸雄君の一般質問を終わります。

以上をもちまして今定例会の一般質問を終わります。

○議長（三田敏秋君） 本日はこれで散会いたします。

なお、3月7日から各常任委員会並びに一般会計予算決算審査特別委員会が開催されますので、定刻までにご参集ください。

皆様には大変ご苦勞さまでございました。

午前11時45分 散会